

職員による自己評価

保護者による評価

A環境面

- ・ 職員の配置数は適切である。
- ・ 生活空間について、面談の重複時に面談室がないことや空間の境目が分かりにくい、玄関の施錠がないなどの課題がある。
- ・ 情報伝達面（掲示板の設置）や安全対策面（窓の格子・鍵カバー等）では改善が見られた。

B 児童への支援内容

- ・ お子様の状況やニーズを客観的に分析して個別支援計画を作成し、計画に沿った支援が行われている。
- ・ 職員間で共通理解を持って一貫した支援を行うために、事前確認や振り返りを行っている。
- ・ 資質向上のために研修の頻度を増やしたい。

C 関係機関や保護者との連携

- ・ 必要に応じて関係機関と連携している。
- ・ ペアレントトレーニングについての在り方は今後検討が必要である。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・ 月 1 回の面談や日々のやりとりの中で、保護者とよい関係を保てるように努めている。
- ・ 父母の会や会報はないが、Web セミナーでの情報発信を行っている。

A環境面

- ・ 生活空間についてはとてもきれいに整頓されている。

B 児童への支援内容

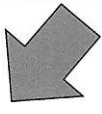
- ・ 専門家の目線からの詳細な説明があり、具体的な対応策や必要なスキルの説明が論理的で納得できる。

C 事業所からの情報発信

- ・ 毎回のフィードバックだけでなく、月 1 回の個別面談が手厚い。
- ・ 相談や申入れを行った後の対応が丁寧である。
- ・ 保護者同士の連携の支援や情報発信について ICT を取り入れるとよい。

D 非常対応

- ・ 感染対策のお知らせはあったが、防犯に対する説明は受けていない。
- ・ 受付不在時でも自由に出入りできる環境は不安である。



事業所内での分析

【共通点】

- ・ 職員配置数・生活空間に対しては良い評価である。
- ・ 支援計画や支援内容に対しては良い評価である。
- ・ お子様に関する情報共有や相談及び助言については良い評価である。
- ・ 保護者同士の連携支援や会報等の定期的な情報発信がない。
- ・ 防犯対策への不安がある（玄関の施錠）。

【相違点】

- ・ 職員側より：面談が重複した際に、保護者との面談室がない。
- ・ 職員側より：必要に応じて関係機関とは連携している。
- ・ 職員側より：ペアレントトレーニングは今後も改善の余地がある。
- ・ 職員側より：資質向上のために研修の頻度を増やしたい。
- ・ 保護者側より：保護者同士の連携の支援や情報発信について ICT を取り入れる。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・お子様に関する情報共有や相談及び助言については、職員側も月1回の保護者面談時に限らず、毎回のフィードバック時の保護者とのコミュニケーションを大切にしている。
- ・複数のアセスメントツールを用い、お子様の状態を客観的に分析した支援計画を作成し、計画に沿った支援を行っている。
- ・お子様が楽しく通所する環境を提供できている。

事業所の改善点

- ・職員が事務所不在時の防犯対策が不十分である。
- ・事務所と待合スペースの境目が分かりにくい。
- ・資質向上のための研修頻度を増やしたい。
- ・ペアレントトレーニングの見直しを行う。

事業所の改善への取り組み

- ・事務所と待合スペースの境目を区切ることが難しいので、お子様の状況に合わせて、職員が随時対応を行う。
- ・ペアレントトレーニングについては、各ご家庭に合わせて実施回数や方法の見直しを行っていく。
- ・職員が事務所不在時の防犯対策について、関係者以外が出入りできないように玄関ドアに施錠をする。
- ・資質向上を目的とする研修として、定期的に意見を出し合う機会やロールプレイを含めた研修機会の確保、各自のセラピー内容を振り返る時間も確保する。更に、セラピーに同行してもらい助言を受ける機会も作っていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

ご多忙の中、貴重なご意見を頂き、誠にありがとうございました。
お子様が楽しく通所いただけていること、支援内容や専門職としての説明にご納得いただけていることは、職員一同、とても励みになりました。一方で、頂いたご意見は真摯に受け止め、改善に努めて参りたいと思います。より保護者の方々から信頼して頂けるよう、事業所の環境や運営体制を整えていくとともに、ペアレントトレーニング等の機会を通じて、保護者の方々と一緒にお子様の成長を支えられるように取り組んで参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

事業所名 発達療育 レンテ市川第二
担当者 長谷川 雅樹